

香川の 土地改良

発行所

香川県土地改良事業団体連合会

高松市番町2丁目4-27-301

TEL (087) 822-0303

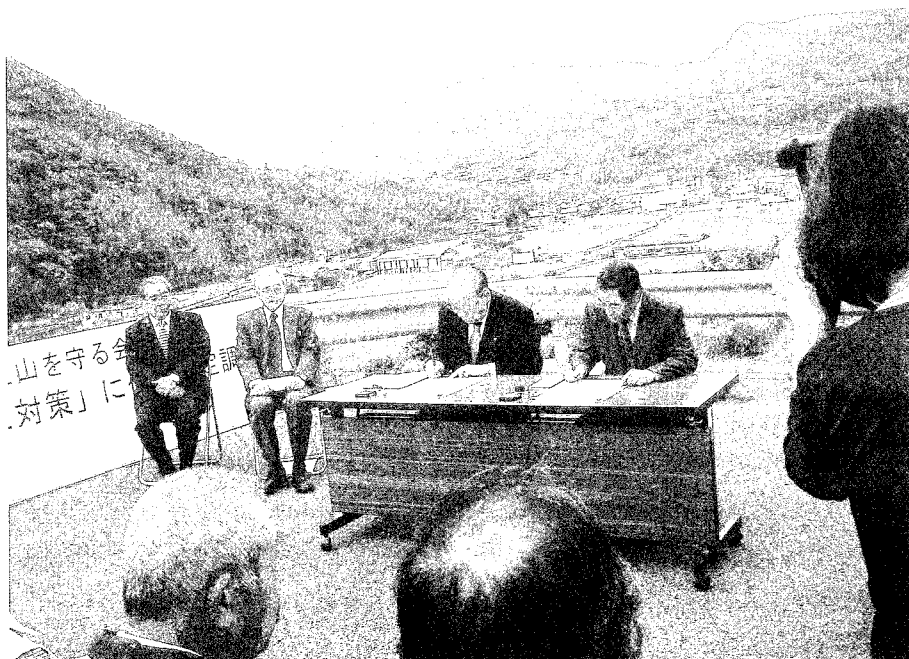
FAX (087) 851-1787

E-mail: ktr-ho01@athena.ocn.ne.jp

土庄町と肥土山を守る会が協定を結びました

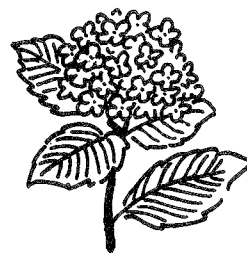
地域ぐるみで農地や農村環境を保全する「農地・水・環境保全向上対策」を取組むため、去る5月31日午前9時から土庄町と「肥土山を守る会」(佐々木邦久代表)が協定調印式を肥土山農村歌舞伎舞台の駐車場において締結した。

調印式には、地元関係者、土庄町の岡田町長、谷口農林水産課長等、来賓には、県小豆総合事務所の杉山土地改良課長、小豆郡土地改良事業推進協議会の谷久会長を迎え30名が出席した。佐々木代表と岡田町長が協



定書に署名、押印し岡田町長は「地域が一体となって、美しい肥土山を後世に残せるような取組みを願っている。」また、佐々木代表は、「農家だけでは肥土山を守っていけない。地固めをした上で攻めの構造を作っていきたい。」と挨拶された。肥土山を守る会の協定対象となる資源は、水田23.5ha、畑1.1ha、計24.6ha、開水路12.9km、パイプライン2.5km、ため池3ヶ所、農道0.8kmの基礎活動、誘導部分の農地・水向上活動を行う。また、農村環境向上活動として、遊休農地にコスモス、農道沿いに植栽やホタルが生息できる環境整備、子供たちが生態系を学べる仕組みづくりなどに取組む計画である。

また、当日は報道関係5社が取材に来られ、翌日の朝刊(四国新聞、毎日新聞、読売新聞等)に掲載され、一般の方々へのPRになりました。



早明浦ダムの貯水量激減

今年は年初より全国的に雨が少なく特に3月から5月にかけては晴天が続き観測史上最小を記録した地域も数地点発生していますが高松では平年の63パーセントで観測史上2番目の少雨になるなど厳しい状況が続いています。

香川用水の水源である早明浦ダムの貯水量は過去に例がない速さで減少が続き6月8日には通常の水取量に対して35パーセントの削減がされる

第2次制限に入ることになりました。

この様な状況を受け香川県渇水対策本部設置に伴う農業用水の制限について香川県農政水産部長から本会会長宛てに依頼文が発出されました。

この依頼を受け本会から土地改良区の水利関係者に対して節水の依頼文を送付することになっていますが関係者の皆様方には節水について一層のご協力をお願い申し上げます。

香川県土地改良事業団体連合会長 殿

香川県農政水産部長

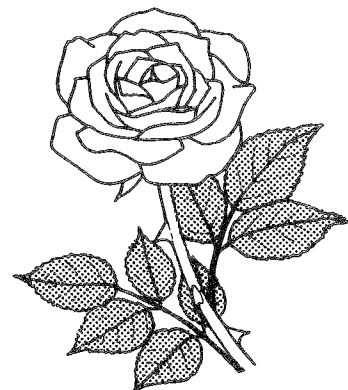
香川県渇水対策本部の設置に伴う農業用水の節水について（依頼）

香川県の水源である早明浦ダム上流域における3～5月の降水量は、389.2mmと平年値（740.2mm）の52.9%と少なく、早明浦ダムの貯水量が急激な減少傾向にあることから、先般5月24日から香川用水の水取量を20%削減する第一次取水制限が実施され、県では、「香川県渇水対策本部」を設置したところであります。

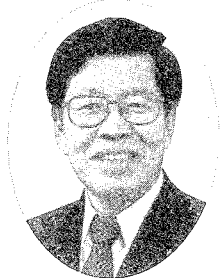
しかしながら、その後も少雨に伴い早明浦ダムの貯水率が減少していることから、6月8日午前9時から香川用水の水取量を35%削減する第二次取水制限が実施されることとなりました。

県内のため池の貯水率は5月31日現在、78%と平年値（93%）を大幅に下回っており、加えて、水稲作付けの最盛期を迎え農業用水の需要が増大することから、今後も少雨傾向が続いた場合には農作物への影響が懸念されるところであります。

つきましては、農業用水の適切な水管理と節水に努めるよう関係団体等への指導をお願いします。



21世紀に対応した「農村再生」を！



水土里ネット香川、各土地改良区の皆様には、今年は地球温暖化の影響とも思える近年にない少雨の年を迎え、これまでで最も早い香川用水の取水制限が開始されるなど、利水調整には大変なご苦労されていると聞いております。まさに土地改良の大切さ、特に讃岐の宝とも言えるため池の大切さが改めて見直されるとともに、それを担う皆様のお力に大きな期待が寄せられていることと存じます。

国政の場でも、暑い夏を迎え胸突き八丁のこの時期となりました。私は、現在、農業・農村を取り巻く状況が、外には「今年中のオーストラリアとのEPA（二国間経済連携協定）締結」という爆弾を抱え、内には「日本全体が人口減少時代に入らな中での農村の活力のとり方」という難題を抱えている、大きな岐路にあると考えています。「農政大改革」もこうした大きな流れの中で、的確な判断が求められています。

しかし、国会の中に目を向けると、衆議院が小選挙区制をとり、かつ一票の格差問題があるため、どうしても都市部に選挙区が多く、農村部には少ない状況にあります。勢い、都市問題は理解が深いですが、農村問題には関心の薄い議員が多いのが実情です。

ところでこれまで、「都市再生」を中心に「日本再生」が図られてきましたが、教育や格差社会の問題が露呈しています。そこにどうしても農村空間の活用という「農村再生」が加わらなければ、21世紀日本の真の豊かさはありません。

こうした中で、農村を基盤とし、そこでの活動に実績を持つ議員がなんとしてもがんばらなければ、参議院の一角をキチンと守らなければ、と考えています。厳しい戦いですが、最後までがんばります。どうぞ、ご支援をよろしくお願いいたします。

参議院議員

段本幸男

七月末に向け土地改良の政治意志結集を

参議院議員 佐藤 昭 郎



水土里ネット香川の皆様暑中お見舞い申し上げます。まず皆様方の変わらぬご支援に厚く感謝申し上げます。私も土地改良の職域代表として、元気に国政活動に取り組んでいます。

さて今年の夏は、各地域で空梅雨があるなど、不順な気候が目立ちますが、現下の国政に於きましても、参議院選挙を控えた国会の特長として、視界不良の終盤を迎えています。6月23日の会期末が7月5日へと12日間延長になり、そのあおりで参議院選挙の投票日が7月29日にずれ込んだことは、皆様に大変なご負担をお掛けすることになり、申し訳なくお詫び申し上げます。

予定した重要法案すべて、特に「社保庁改革法案」と「公務員制度改革法案」を何が何でも成立させたいとの安倍首相の強い決意がこの結果を生じたわけで、正に「戦後レジームからの脱却」を成果に参議院選挙で国民の信を問うことになりました。

終盤国会の論争の主題となりました年金問題に関しましては、我々自民党は「逃げない」「言い訳しない」「解決する」を合い言葉に、万全の対応を図っていく所存です。また今回の参議院選挙は、安倍自民党と小沢民主党の天下分け目の戦いであると同時に、土地改良組織にとりましても極めて重要な意味を持つ選挙であります。

つまり、年金、憲法改正、教育、格差是正等の争点と並んで、農業政策が与野党対決の分野となっているからです。民主党の「全農家に所得補償を、その財源は土地改良事業費から」「農産物貿易の完全自由化」「食料自給率100%」さらには「米の生産調整は廃止し、生産過剰による米価格の暴落には所得補償で対処」等の農業政策は耳障りが良いですが、無責任な、実現不可能な政策であります。

やはり、平成19年度から本格化している、自民党と政府が二人三脚で進めてきた農政改革3本柱、「品目横断対策」「米政策改革」そして「農地・水・環境保全対策」を中心とした未来志向かつ現実的、整合性のある農業政策を推進していくべきです。また、農地制度改革、地球温暖化対策としての森林吸収源対策、バイオマスニッポン、農村活性化方策さらに農産物輸出倍増政策等の新規施策も、予算・法制度を含めて、いよいよ充実強化していく大事な次期にあります。参議院で与党が敗北して、農業政策が大混乱する事態は避けなければなりません。

段本幸男議員は1期目の後半を迎えて、国会委員会、党政調部会、議員連盟等でまさに八面六臂の活躍であり、先の臨時国会では「有機農業推進法」を議員立法として成立させました。国会活動と並行して、7月に向けて全国、各地域の支援者との情報交換のための全国行脚を精力的に続けています。

段本幸男議員が土地改良の職域代表として、激戦を勝ち抜いてもらい、皆様の想いを2期目の国政に実現させるためには、土地改良の政治意志の結集が是非とも必要です。7月の決戦まであとわずか、皆様方のいよいよのご支援をどうか宜しくお願い申し上げます。

平成19年度土地改良管理指導事業専門指導員打合せ会開催

土地改良施設の定期診断地区決定

新規加入地区土地改良維持管理適正化事業実施地区決定

土地改良施設の管理は、ダム、ため池、揚排水機、頭首工、用排水路などを常に良好な状態に維持保存し、その目的に応じて最も効率的に活用することにある。ところが、土地改良施設の維持管理面は、ややもすれば建設時と比べ軽視されがちである。

たとえ、どんな立派な施設を造成しても、その管理が十分でないと建設時に期待した効果が発揮されないばかりか、施設の劣化が進行し予定された耐用年数を全うすることができない。

また、そうすることは短期的に見れば管理費が少なくて済むかもしれないが、中、長期的には多額の整備補修費が必要となったり、施設の更新時期を早めるなど結局は管理費や土地改良事業費の増嵩を招くことになる。したがって、土地改良施設の管理は計画的に適時的確に行うことが重要である。

土地改良施設は、農業経営にとって最も重要な施設であり、環境の浄化や地域排水路としての役割を担い、更に、国土保全機能なども併せ持ち、広く農村社会において欠くことのできない公共施設となっている。

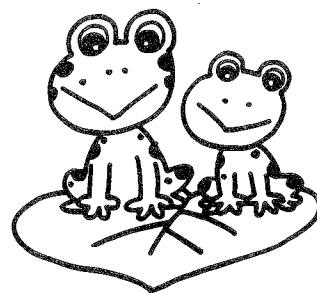
本県には、この土地改良施設を定期的に診断するダム、ため池、頭首工、揚水機、排水機、水門など435施設が登録され本会の土地改良管理指導事業の専門指導員が2年～5年の間隔でその施設の診断に当たることになっている。

この貴重な土地改良施設の寿命を延ばすも縮めるも全てこの施設診断にかかっており、本年度の診断計画等について協議する専門指導員打合せ会が去る5月31日、本会会議室において開催された。

冒頭、山地運営委員長（本会常務理事）から土地改良施設定期診断・土地改良相談及び土地改良施設維持管理適正化事業の実施計画に対する協力方についてお願いする開会の挨拶に続き、香川県農政水産部土地改良課黒川課長の挨拶がありこの中で、先月末実施された農林水産検査第2課の結果、特別調書に係るパイプラインの給水栓、農道整備の効果等について指導があったこと。県予算については厳しい財政状況ではあるが土地改良課全体では対前年比97.8%を確保することができたこと、さらに国の予算では施設の保全管理にシフトした予算となって来っており、特にストックマネジメントの事業が制度化された。

このような状況を受け県では平成19年度の維持管理適正化事業の予算については地元の要望に答える11,600百万円を確保したが今後とも努力していきたいと挨拶された。

この後、協議に入り平成19年度計画として土地改良施設定期診断の実施、土地改良相談所の開設、更に、平成19年度新規加入土地改良施設維持管理適正化事業の実施計画などについて協議し閉会した。



さぬき “水の歴史考”

平井 忠志
（「四国作家」同人）

(46) 決死の池築造

はじめに

さぬき市の志度町鴨部に、白川原大池がある。貯水量は約十一万トンで三十ヘクタール余の水田を潤している。江戸時代の前期、元禄年間に地元の熱望により築造されたものである。

折りしも藩の財政破綻に伴う新規事業の抑制策により、一時は不採択の危機に直面したが、命をかけた一郷士の嘆願が功を奏し、池が完成したという。

ここにその伝承と、その背景にあった高松藩の財政事情にスポットを当ててみたい。

高松藩に築造嘆願

元禄年間（1688～1704）に鴨部東山村の郷士・矢田助右衛門が、高松藩にため池の新設を請願した。当時、鴨部東山の一帯は“白川原”と呼ばれる石礫の川原や荒れ地が多く、村は貧しかった。そこで助右衛門は、上流に新しく池を築きこれを水源として数十町歩の開田を目論んだ。

だが池の築造は、貧村の労力だけでは無理である。助右衛門は精査のうえ詳細な施工計画を立て、郷普請（藩普請）を願い出たが、藩は難色を示して事業を採択しなかった。

技術上不適格と判定

助右衛門はあきらめなかった。何度も熱心に陳情を繰り返した結果、ついに普請奉行が現地調査をする段階まで持ち込んだ。恐らく助右衛門は村人たちを従えて、足取り軽く奉行を案内したに相違いない。

ところが意外な成り行きに見舞われた。現地を入念に踏査したあと普請奉行は、「この場所は、ため池の築造には不適格である」と判定を下したという。その理由はダムサイトの地質であった。

山肌に現れた岩盤の大きな節理が、すべて下流に向かって傾斜していた。「せっかく貯水しても、水が漏れる恐れがある」という。

もともと岩盤と盛土は肌合いが悪い。ましてや現代のように、「セメント注入」の工法で補強もできない。大枚の藩費をつぎ込んだ池に水が貯まらないでは、普請奉行の責任問題にもなりかねまい。

背後に藩財政の破綻

普請奉行は頑として、事業の採択を認めなかった。実はこの不採択の背景には、いま一つの事情があった。藩財政の窮乏に伴う公共事業の抑制である。

高松初代藩主頼重は延宝元年（1673）、藩主の座を養子の頼常（水戸光圀の嫡男）にゆずり、“お下屋敷”と呼ばれる栗林荘に隠居した。当時、藩の財政は「京大阪の町人も借り尽くし」（『英公外記』）莫大な借財を抱えていた。にもかかわらず頼重は隠居後も藩政の実権を握り、松島町から屋島西町にかけての、新規干拓地の年貢米などは毎年、隠居料としてお下屋敷に収納していた。

このため「お下屋敷は富有にして金銀に飽満し給ひ……『英公外記』」その反面、表方の財政は火の車



白川原大池（さぬき市鴨部）

であった。

新規事業を抑制

頼常は破綻寸前の藩財政を守るため、「家中借米」(家臣の知行米の減額支給)を行うほかなかった。この賃金カットは7～8年間続き、多い時は50%、少ない年でも25%という厳しさであった。

元禄八年(1696)隠居の頼重が死去した。藩主・頼常は待ちかねたように、藩政改革に乗り出した。年間の税収を越える支出予算は一切認めず、寺社建築など箱物行政や、新規の公共事業は厳しく抑制した。

さらに事業の執行計画では、「年寄どもは、おおやけにて、こまやかなる事は存じまじく候……『増補高松藩記』」として老中クラスの介在を許さず、勘定奉行に一切の実権を持たせたのである。

リストラを断行

その翌年、元禄九年には思い切ったリストラを行っている。「英公(頼重)薨ずるに及んで、豪華益々甚だしく、しばしば藩法を犯す」(『高松松平氏歴世年賦』)として、目に余る頼重派の重臣数人を罷免し、その家禄を没収した。さらに禄高数百石の幹部クラスの家臣数人に、致仕(退職)を命じている。

これは従来のしがらみを捨てて財政改革を断行するため、藩主側近の執行体制を強化したのである。問題の白川原池の新設も、こうした厳しい行財政改革の嵐の中で、採択の適否が論じられたものと思われる。

切腹覚悟の再嘆願

矢田助右衛門は、どう考えても納得できなかつた。盛土に良質の粘土を使用して入念に施工すれば、漏水を食い止められる自信があった。

彼は思案の末、現地踏査を終えて城に戻っていく普請奉行の後を、馬で追いかけた。屋島の辺りで奉行の一行に追いついて再三再四、嘆願を試みたという。

「万一漏水して貯水できなかつた時は、責任を取り割腹してお詫び申し上げます」。助右衛門の決死の覚悟に、さしもの奉行も動揺したが、即答は出来なかつたに違いない。恐らく城に持ち帰って勘定奉行に事情を訴え、特例として採択に踏み切ったのではなからうか。



普請奉行を追いかける矢田助右衛門(小比賀勝美画)

白川原大池が竣工

ついに念願の池築造の許可が下りた。村人たちも助右衛門の立場を理解して、入念の施工を惜しまなかつたという。こうして白川原大池は無事完成し、あとは開田を待つばかりになった。

当時の新田開墾は、藩に許可願を出すと、三年間は年貢免除の作り取りが許されたようである。村人たちは欣喜雀躍して新田の開墾に励み、日ならずして広大な美田が開かれた。

これを見届けたあと、矢田助右衛門は元禄十三年(1701)、村人たちに惜しまれながら亡くなったという。

報恩の能徳池を築造

村人たちは矢田助右衛門の田を干ばつから守るため、彼の家の裏に小さな池を築いて「能徳池」と名付けた。貯水量3500トンの小池だが、助右衛門の耕作田4反歩の専用池である。

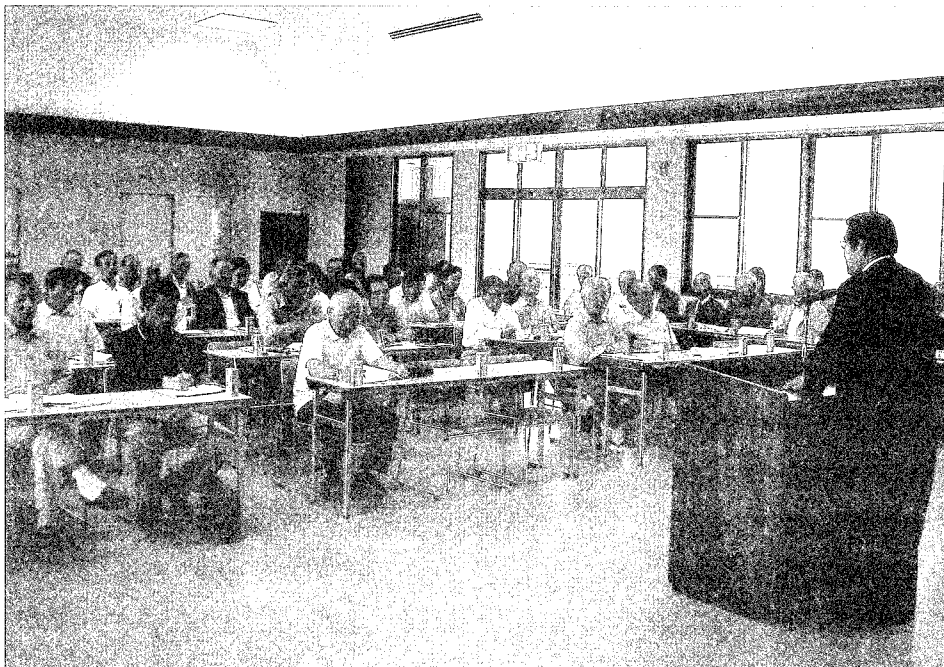
郷土史家・岡村信男氏の話によれば、干ばつで白川原大池が空になる前に、まず能徳池に導水して満水させる慣わしで、今も当時の慣行が守られているという。

『白川原大池干潟になると、能徳池には水絶つまいぞ』村人たちは今も口ずさみながら、助右衛門の徳を語り伝えているという。



能徳池(さぬき市鴨部)

国分寺町土地改良区第一回臨時総代会開催



旧国分寺町の区域を範囲とする国分寺町土地改良区が平成19年3月16日に知事より認可され、5月23日高松市国分寺会館において第一回の臨時総代会が開催された。

臨時総代会の開会にあたり末澤尚規理事長から当日の出席とこれまでの協力に対するお礼、総代の選挙に続いて今後4年間の運営を担う理事、監事の選任をお願い。さらに、一昨年11月の土地改良区設立準備会の立ち上げから約1年半になるがこの間、毎月1回のペースで会合を開き、設立準備委員会規約、役員選任、設立スケジュールの審議など土地改良区設立に必要な手続きを進めてきた。

また、これに併行して水利組合関係者に対して土地改良区設立の必要性、組織と運営方法、高松市における土地改良事業の取り組み方と補助制度等の説明会を開催し組合員の理解促進を図ってきた。

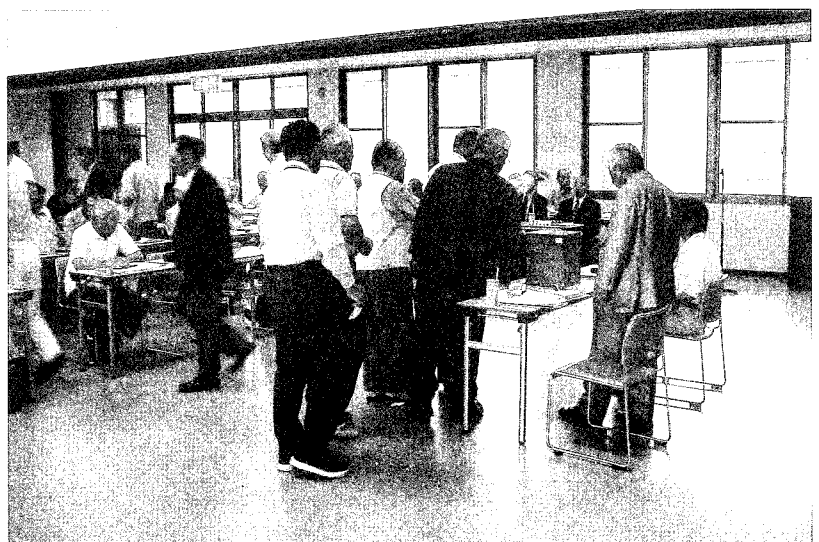
これからは役職員一同が英知を結集して組合員の信頼を得るような土地改良区

の運営をして行きたいと挨拶された。

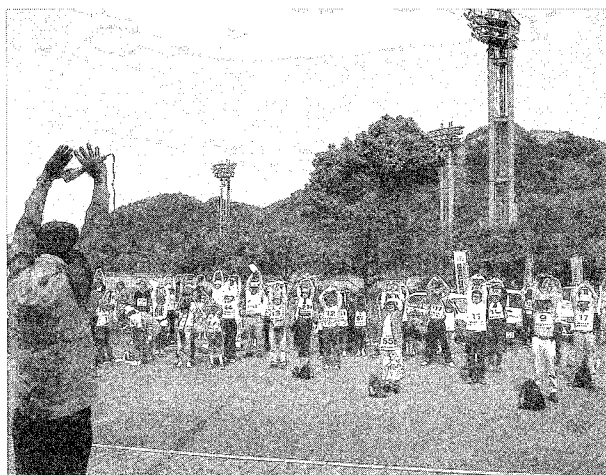
続いて来賓の香川県土地改良事業団体連合会川東俊雄参事、香川県議会竹本敏信議員、高松市議会森川輝男議員、西岡章夫議員、高松市国分寺支所伊藤課長の挨拶の後議事に入り第1号議案の定款・役員選任規程についてから第17号議案役員並びに総代の報酬及び費用弁償の額についての決定に続いて第18号議案の役員選任に移り、総代から選ばれた推薦人会議において推

薦された者について総代による投票が行われた結果、賛成多数で被推薦人全員が役員に選出され新しい執行体制が成立した。

最後に報告第1号として規約第27条に規程する顧問についての報告がありこれまで土地改良区の設立に尽力をいただいた前町長の福井則史氏を顧問にお願いするとの報告があり全員一致で承認され全議案原案のとおり決定した。



水土里の路ウォーキング開催 (太古の森とため池巡り)



体を解す準備体操

去る6月2日(土)、ため池や水路など土地改良施設の役割を学びながら歩く「水土里の路ウォーキング」が水土里ネット三木、水土里ネット山大寺池、三木町、中国四国農政局香川農地防災事業所、同四国土地改良調査管理事務所、水土里ネット香川用水、水土里ネット香川主催のもと、木田郡三木町の山大寺池周辺で開催された。このウォーキングは平成15年から県内各地の水土里ネットで行われており、今回で4回目となる。

午前9時三木町総合運動公園、時折うす陽の射す曇り空、ウォーキングには絶好の天候のなか、親子連れを含む119名の参加者と中国四国農政局から木下香川農地防災事業所長、小林四国土地

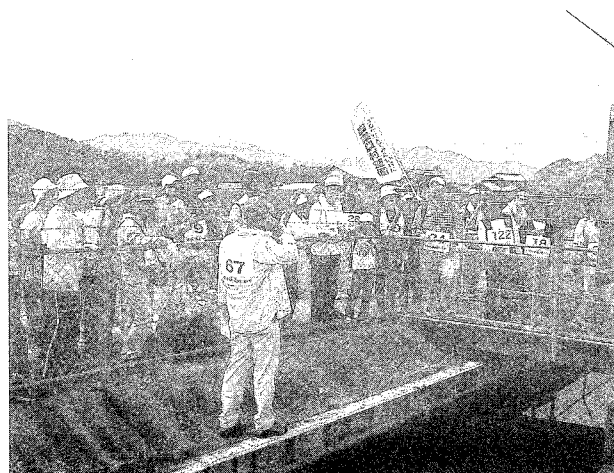


スタート直後の山大寺池の浮橋

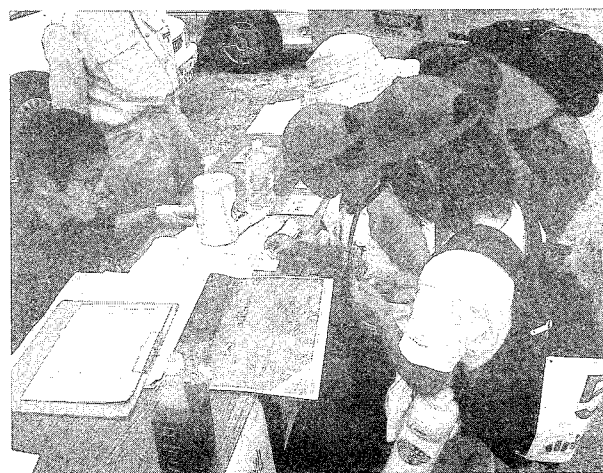
改良調査管理事務所長、県から黒川土地改良課長、また、水土里ネット香川用水の兼間事務局長ら土地改良関係者を加えた総勢158名が参集した。

主催者を代表して石原三木町長、石井水土里ネット山大寺池理事長、本会山地常務理事が参加に対するお礼と今日のウォーキングでため池や水路などの土地改良事業や施設の役割を是非学んでもらいたいと挨拶。続いて、本会川東参事の注意事項説明の後、香川県ウォーキング協会の安松理事から準備運動の指導を受け、9時30分、「水土里の路ウォーキング」の幟(のぼり)を先頭に一周約7kmのゴールを目指しスタートした。

順路は山大寺池の浮橋を渡り、古代植物メタセ



香川用水での説明



熱心に水質試験をする子供たち

コイヤの生息する太古の森を抜け、香川用水東部幹線沿いに平野池、堀切池、南進して渡池、奥ノ堂池を巡る周回コース。沿道には水土里ネット山大寺池寄贈の幟30本。池の水面(みなも)に草木の緑と幟の水土里が融けこむように映る。

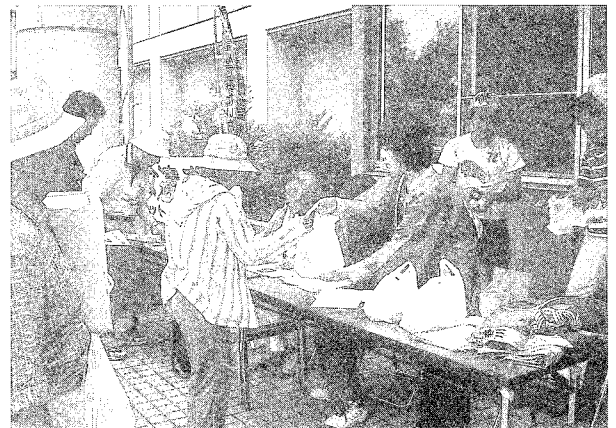
第1チェックポイントは香川用水東部幹線新川サイホン地点で香川用水事業の概要説明を同水土里ネットの山下管理課長が担当。説明後、参加者からの熱心な質問に予定時間をオーバーするハプニングもあった。

第2チェックポイントの渡池堤防上では香川農地防災事業所の古谷工事第一課長から渡池改修工事の概要説明と四国土地改良調査管理事務所職員によるため池の水質状態の判定試験実演があった。参加者も水質判定試験を体験し、水質により変化する色に驚きのどよめきが聞こえてきた。未来の賢人に意思は届いたに違いない。

スタートして2時間余り、ひとりのリタイヤもなく参加者全員が無事三木町総合運動公園にゴールイン。

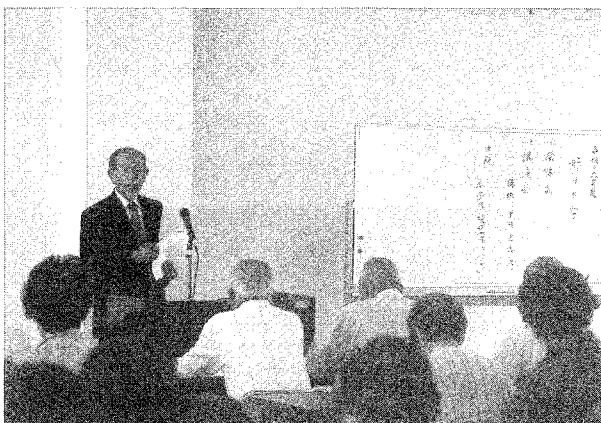
「あーあ、しんどかった。」「最後の上り坂がえらかった。」「足がガクガク。」などと聞こえるが、皆笑顔。今回の最年少と最年長、年の差なんと75歳。多少の時間差はあったものの、水土里の路ならでは。ウォーキングは癖になるとよく聞くが、次回のコースが楽しみだ。

ゴール受付では農業農村整備に関するパンフレットとお土産が参加者全員にプレゼントされ解散した。



ゴールでお土産をもらい解散

平井忠志氏(元香川県農林部土地改良課長)講演 ～一ノ谷池(観音寺市中田井町)の歴史について～



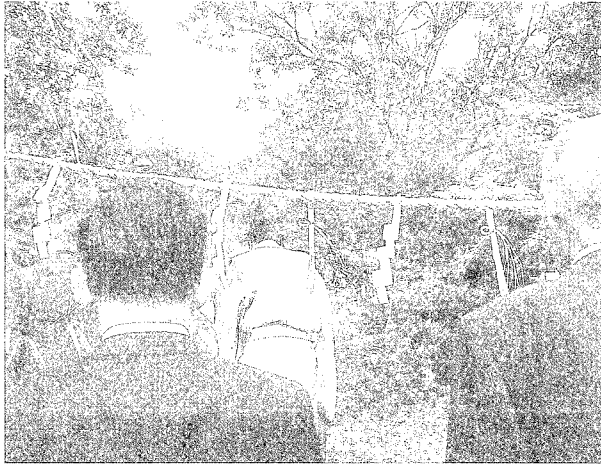
去る5月9日、観音寺市一ノ谷総合コミュニティセンターにおいて一ノ谷老人クラブ連合会主催の「好日大学」が開催され、平井忠志氏(元香川県農林部土地改良課長、現在は四国作家同人として活躍、本誌の“水の歴史考”を執筆連載中)が一ノ谷池にまつわる歴史について講演された。

当日は地域内の関係者約60名が出席、開校式の挨拶に続いて講師の紹介がされ講演が始まった。

講演内容は一ノ谷池が築造された時代背景として讃岐藩主の生駒家の状況、藩の水利を担当した伊勢の藤堂藩から派遣された西嶋八兵衛によって築造の采配がされ、寛永11年の着工から寛永16年の完成に至る経緯、特に工事途中では洪水に悩まされこれの解決に人柱を立てるなど苦労したこと、更に、昭和になってからは日支事変最中の昭和16年、人夫不足の中での樋管替工事においては工事完成翌年に早くも堤防が決壊したことなどが紹介され一ノ谷池に関わる関係者にとっては関心の深まる話であった。

講演後受講者からは質問が出されるなど水に係わる関心の高さが感じられ有意義な講演会となった。

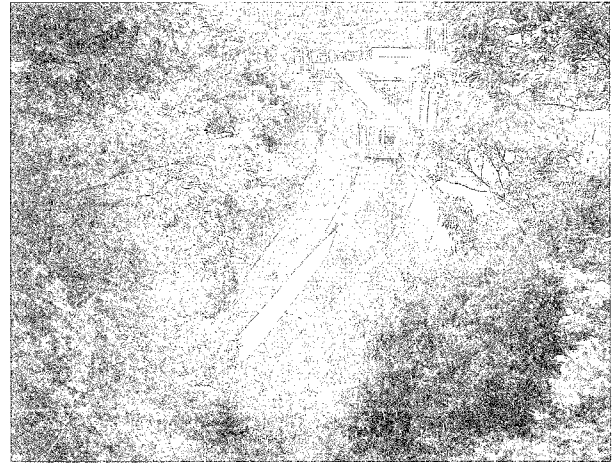
内場池ユル抜き式挙行



去る5月20日、高松市塩江町にある内場池で高松平野に田植えシーズンの到来を告げるユル抜き式が挙行された。

当日は、ユル抜きに先立ち内場池竜王神社で泉川静雄奉賛会会長（香川県内場池土地改良区理事長）をはじめ水利関係者、来賓として藤原稔香川県東讃土地改良事務所次長、久桑井雅人香川県高松土木事務所長、大谷光男高松市産業部土地改良課長等を含め60名余の出席のもと今年の水の安全な配水と五穀豊穰を祈願する神事が執り行われた。

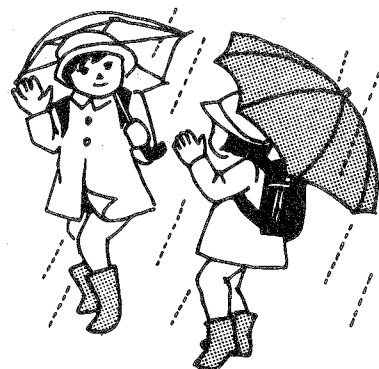
神事後、泉川奉賛会会長から出席者に対するお礼と地元塩江町関係者の各般にわたる協力に対するお礼が述べられた後、今年は年初から特に雨



が少なく、貯水量は80パーセントを切る状況で、早明浦ダムも取水制限がされるなど大変な時を迎えるかもしれないが雨が降ることを願うとともに皆様方には配水管理にご協力をいただき円滑な配水に努めたいと挨拶をされた。

この後、例年通り放流のため、ゲートの開放がされたが、今年は節水のため直ちに閉じられたため例年のように白いしぶきをあげた豪快な白煙の放流水は数分で終わった。この対応から今年の水の厳しさを実感するものであった。

高松平野に広がる受益地約2,800ヘクタールの水田を潤す本格的な放水は6月中旬頃から行われることになっている。



会と催し

- | | | | |
|------|--|-----|--|
| 5月2日 | 平成18年度農林水産検査第2課会計 実地検査市町等説明会 (高松市) | 22日 | 全国ため池等整備事業推進協議会理事 会・通常総会 (東京都) |
| 7日 | 基幹水利施設ストックマネジメント 事業等説明会 (岡山市) | 23日 | 国分寺町土地改良区第一回臨時総代会 (高松市) |
| 9日 | 一ノ谷老人クラブ「好日大学」 (観音寺市) | 24日 | 平成19年度観音寺市地域担い手育成 総合支援協議会幹事会 (観音寺市) |
| 10日 | 平成19年度吉野川総合開発香川用水 事業推進協議会役員会 | 25日 | 21世紀創造運動地方大賞中国四国地 方選考委員会 (岡山市) |
| 10日 | 平成19年度第一回役員会(香川地区 国営総合農地防災事業推進協議会) (高松市) | 29日 | 土地改良負担金総合償還対策事業の拡 充に係る説明会 (岡山市) |
| 11日 | 平成19年度牛川地区基盤整備事業推 進協議会総会 (綾川町) | 30日 | 北地区基盤整備事業等推進協議会総会 (綾川町) |
| 17日 | 綾川町担い手育成総合支援協議会幹事 会 (綾川町) | 31日 | 21世紀土地改良区創造運動担当者会 議(東京都) |
| 17日 | 平成19年度第一回役員会(地域資源 循環技術センター) (東京都) | 31日 | 土地改良管理指導事業推進委員会専門 指導員打合せ会(高松市) |
| 20日 | 内場池竜王神社例祭並びにユル抜き式 (高松市) | | |

